全国の浜から ～「第５回 貝殻利用と豊かな海づくり研修会」報告～

平成 24 年６月６日に、東京の JF 全漁連大会議室で「第５回貝殻利用と豊かな海づくり研修会」が開催され、漁業者、国土交通省、岡山県それぞれの立場から３名の講師に、ご講演頂きました。今回はその講演内容についてご紹介します。

『米ヶ脇地区における藻場保全の取り組み』

福井県雄島漁協　米ヶ脇里海を守る会　　松田　泰明　氏

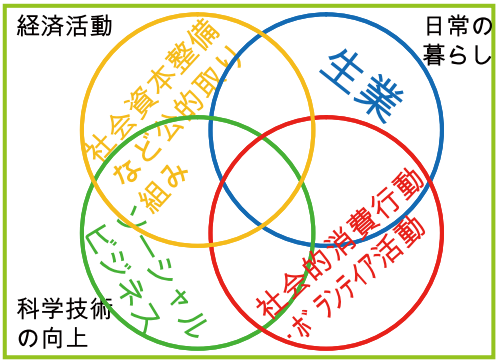
藻場の保全には地域全体の取り組みが必要

○海女さんの漁業活動により長年藻場が保全されてきた
○漁業者の減少や高齢化に伴い、地域の方の協力を得て藻場の保全活動を継続している
○調査の結果、健全な藻場はまだ残っていた
○将来にわたって、藻場を残すためには、地元の海に地域の方が入っていけるような制度づくりが必要である

保全活動の様子（講演資料より抜粋）

『エコシステムを回す社会システムづくり』

国土交通省　九州地方整備局　副局長　難波　喬司　氏



（講演資料より抜粋）

参加型の社会システムをつくる

○海を豊かにすることが『利（利益生・楽しみ）』と『理（理念・社会的意義）』につながるというストーリーをつくる
○行政側は、社会資本整備の機会を利用して環境改善を図る、またソーシャルビジネスを支援する
○企業側は行政側からの要請待ちでなく、積極的にビジネス機会を利用する。貝殻利用もソーシャルビジネスになる

『カキ殻を利用した海域環境修復の取り組み』

岡山県　農林水産部　水産課　総括主幹　鳥井　正也　氏

カキ殻の有効性に着目し底質改善技術等に利用

○カキ殻利用のきっかけは廃棄物処理ではなく、様々な機能や有効性に着目して実用化することを目的とした
○アマモのアンカー材、底生生物相の多様化等の効果が確認されており、実用化のためガイドラインを作成した
○今後は広域的に技術を適用するためガイドラインを更新し、また、カキ殻による物質循環の解明を行っていく

備前市日生町のカキ筏
（講演資料より抜粋）